

「にじのきらめき」は出穂25～15日前頃の追肥が収量・品質向上に効果的です。

令和6年度実証ほ事例紹介

「にじのきらめき」の全量基肥＋穂肥体系による高品質・安定多収栽培の実証

「コシヒカリ」の全量基肥栽培と比較し、基部未熟粒等が少ないため、整粒歩合は高く、収量は600kg/10a以上が得られました

地域	品種	移植期	施肥N量 (基肥＋追肥)	収量	検査 等級
		(月/日)	(N kg/10a)	(kg/10a)	
筑西市	にじのきらめき	5/21	10.8＋3.0	618	1等
筑西市	コシヒカリ	5/5	6.4(追肥無)	411	2等

※ 「にじのきらめき」、「コシヒカリ」ともに全量基肥肥料を施用した。
※ 「にじのきらめき」、「コシヒカリ」ともに倒伏は確認されなかった。

結果

- ・ 出穂15日前頃（幼穂長で30mm）に窒素で3kg/10aの追肥を行うことで、600kg/10a以上の収量が得られた。
- ・ 「にじのきらめき」は「コシヒカリ」よりも基部未熟粒を始めとした白未熟粒が少なくなり、整粒歩合が向上した結果、1等であった。

注意

高温・多湿によって発生が助長される**紋枯病**が増えています。倒伏や登熟不良に繋がる前に、箱剤の使用や早期の本田防除を心がけましょう。



茨城県では、「にじのきらめき」の栽培暦を公開中です！
右のQRコードから是非ご確認ください。



ご不明な点については、最寄りの農林事務所経営・普及部門、普及センター、JAにお問い合わせ下さい。

茨城県、JAグループ茨城

暑さに負けない米づくり対策

令和6年産米はイネカメムシと高温の被害大

- 高温による出穂期の早まり＋斑点米カメムシ類の発生が多く、発生時期も早かった
 - 防除計画が柔軟に変更できないなど、適期防除ができなかった
- （移植が早い「あきたこまち」、「コシヒカリ」で着色粒による被害大
イネカメムシによる不稔被害も発生 ⇒ 収量低下

- 水稻の出穂期～成熟期にあたる7月中旬～8月下旬の長期間にわたり、白未熟粒が増加しやすいレベルの高温が続いた
- （5月以降に移植した品種では、高温による品質低下が大きい
高温に強い品種でも、昨年よりも品質が低下傾向

イネカメムシの適切な情報・防除方法に基づく対策と
高温対策として基本技術の励行が重要！

イネカメムシの防除対策

① 発生状況のチェック

茨城県病害虫防除所では、

病害虫の発生状況の情報発信を行っています。本年の発生情報
とは場の発生状況を確認して②の適期防除に備えましょう。

注意報

茨城県病害虫防除所

令和6年7月11日

病害虫発生予察注意報 第2号

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています

～不稔粒対策には出穂期～穂揃期、斑点米対策には乳熟期の防除が重要です～

【発表の内容】
作物名：水稻
病害虫名：斑点米カメムシ類（イネカメムシ、クモヘリカメムシ等）
発生量：多い
発生地域：県下全域



茨城県病害虫
防除所HP

② 防除時期

イネカメムシは、稲の出穂後に水田の畦畔を経由せず直接本田に
飛び込んできます。防除時期の目安はこちら。

（1）出穂期：**成虫**による不稔被害軽減

（2）出穂後10～15日：**幼虫**による斑点米被害軽減

※周辺と出穂期が異なる品種は特に注意！



③ その他

- ・ 熟期が同じ品種をできるだけ集約して作付けすることで薬剤防除の効果の向上と効率化を図りましょう。
- ・ 地区の一斉防除が適期に行えない場合は、地域の防除請負業者への委託を検討しましょう。

